

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172900755		
法人名	有限会社 ノースランド企画		
事業所名	グループホームきれんじやく A棟		
所在地	北海道旭川市末広5条7丁目1番11号		
自己評価作成日	令和1年(2019年)8月1日	評価結果市町村受理日	令和1年(2019年)10月2日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0172900755-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	令和1年9月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体が医療法人のため、医療との連携がとれている。終末期の対応についても希望があれば、ご本人、ご家族様に安心して最期の時を迎えていただけるよう医療と連携し支援している。同一建物内に、住宅型有料老人ホーム、訪問介護事業所、居宅支援事業所がある。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームきれんじやく」は、旭川市郊外の3線道路に面した開設18年目のグループホームである。近隣にはバス停やスーパーマーケット、同法人のグループホーム、母体の医療法人病院もある。広々とした玄関ホールを中心に左右にユニットがあり、開放感のある共用空間は回廊式で、居間から見えない場所にトイレを配置するなど工夫した造りになっている。居間や廊下には、職員手づくりの季節作品などが飾られている。2年前に着任した管理者を中心に、新しい職員の視点も活かしながら、全職員で一人ひとりの利用者が穏やかにその人らしい生活ができるように支援している。日々の適切な健康管理の下に看取りにも熱心に取り組み、細やかな支援を行うなど医療面も充実している。運営推進会議に外部講師を招いて研修や講習会を開催したり、職員体制の見直しや適切な見守り方法を全職員で検討して拘束しないケアに取り組みなど、前回の課題に真摯に向き合っている。また、職員の資質向上に向けて、毎月計画的に研修を実施している。生活支援向上連携加算を活用し、リハビリ専門員の指導の下に排泄訓練を取り入れて自立に向けた取り組みも行っている。近隣住民から花の差し入れを受けたり、小学生やボランティアの来訪、多くの地域役員が運営推進会議に参加するなど、普段から地域と活発に交流している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(A棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設時、職員で作上げた理念である。理念に基づき管理者、職員が一つになり取り組んでいる	開設時より地域密着型サービスを意識し、「地域の中で共に生きる」という理念を職員と共に作成し、ミーティングなどで再確認して実践につなげている。採用時に理念を記載した書面を渡し、研修で詳しく説明している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方でボランティアとして来訪されレクなどで交流。近所のスーパーや飲食店へ出掛けたり散歩をしたりと地域との繋がりを意識している。	小学生が毎年来訪し、手品などの出し物を披露したり利用者と一緒に折り紙を楽しんでいる。近隣から花の差し入れを受けることもある。今後、地域住民と交流できる喫茶店の開催も検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議やボランティアを通じて認知症の理解を求めている。また、小学校の授業での訪問を受けたりしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームでの行事や生活の様子をお伝えしている。それに対して質問や意見をお聞きしサービスの向上に努めている	多くの地域関係者の参加を得て、事業所の報告、外部講師による介護保険制度や介護用品についての研修、救急救命訓練講習などを実施している。年度末にテーマを設定して家族に周知しているが、参加を得るまでには至っていない。	テーマに沿って事前に聞き取るなど、参加できない家族の意見なども会議に活かせるような取り組みを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加頂いたり、運営状況について相談させていただきなどしている。	運営推進会議時に市役所の担当者に分からないことを聞いたり、市の集団指導に参加して運営やケアに活かしている。研修や介護ロボットの助成について情報ももらっている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在身体拘束実施者はいないが、定期的に研修を行い身体拘束廃止に取り組んでいる	身体拘束廃止マニュアルを整備し、3か月ごとの身体拘束廃止委員会で「禁止の対象となる具体的な行為」11項目について確認している。職員体制や適切な見守り方法などを検討して、拘束しないケアに取り組んでいる。ベッドから布団に寝具を変更するなど工夫している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修を行い、ホームでの虐待行為がないよう努めている。		

グループホームきれんじゃく

自己評価	外部評価	項目	自己評価(A棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在制度を利用されている方はいないが、必要時には助言等できるよう、また、活用につなげられるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時や必要に応じて利用者、ご家族に説明させていただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が来訪時には現状報告と合わせて今困っていることなどないかを尋ねている。契約書、重要事項説明書に苦情について記載している。	家族の来訪時に本人の様子を伝え、意見や要望を聞き取っている。日々の記録用紙の裏面に家族とのやり取りを記録し、職員間で情報を共有している。毎月個別だよりを家族に送付している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例ミーティングにて職員の意見等を把握し、管理者会議等で運営に反映できるよう報告、相談を行っている。	ミーティングに参加できない職員の意見をテーマに沿って事前に聞き取り、会議に反映させている。利用者への適切な対応方法など、職員間で活発に意見交換してケアに活かしている。管理者と職員の個人面談も実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回、人事考課を実施。また毎月勤務状況を管理者より報告している。ストレスチェック、健康診断も実施。働き方改革にそって有休取得しやすい環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要性、力量に合わせて必要な研修が受けられるよう配慮している。毎月ミーティング内で研修を実施している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センターで開催される研修は、他事業所との交流も出来るためできる限り参加できるよう支援している。		

グループホームきれんじゃく

自己評価	外部評価	項目	自己評価(A棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に不安、心配事などを把握し、入居後はご本人、ご家族に声かけを多くし、日常の様子を伝えるなどコミュニケーションに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族、ご本人の意向を確認し、入居前後の不安などを少しでも和らげることができるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の要望などをお聞きしグループホーム以外以外にも様々な介護サービスがあることをお伝えし検討して頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の得意なことを把握し、お手伝いを職員と一緒に行っていただくなどしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族にご本人の状況に変化等あれば連絡、相談し、一緒に検討いただくなど常にご本人を支えて頂いている。通院時には付き添いをお願いしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族に協力いただき支援している。馴染みの方もホームにはいつでも来訪していただいて構わないことをお伝えしている。また、ご家族と馴染みの場所へ出掛けられることもある。	近所に住んでいた方や子供の友人関係の方が訪ねて来る利用者もいる。職員と一緒に近隣の店に買い物に出かけたり、家族と銭湯やレジャー施設、法要などに出かける方もいる。毎週来訪するパンの訪問販売を楽しみにしている利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの居場所で思い思いに過ぎて頂きながらも孤立感のないように声掛けなどを行っている。入居者同士お互いに気遣い合われている。		

グループホームきれんじゃく

自己評価	外部評価	項目	自己評価(A棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、何かあればご相談に応じることをお伝えしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時にご本人のアセスメントにて意向等の確認の把握に努めている。好きな事が行えるように支援している。	会話や表情、仕草、家族からの情報などを基に、思いや意向の把握に努めている。センター方式「C-1-2」用紙に具体的に趣味や嗜好を記録し、思いや意向の把握に活かしたいと考えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの暮らしの情報をご本人、ご家族よりいただき今後のホームでの生活に活かせるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前後にご本人の現状を把握し暮らしやすいように援助できるよう努めている。共同生活にもなじめるよう支援。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	4か月に1回のペースで介護計画を作成。状況に変化があれば都度作成。毎月モニタリングを行い、新たな計画書の作成時には家族とも話し合っている。	計画作成担当者が毎月実施結果を確認し、4か月ごとに職員間で意見交換して介護計画を作成している。利用者の状況に応じて「ひもときシート」やセンター方式シートを活用して、細やかに把握して適切な介護計画の作成につなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々変化することについては、朝夕の申し送り時に情報共有できるよう努めている。毎月モニタリングを行い、評価に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	空室がある場合はショートステイが利用できるため、入居前に利用していただくなど要望に応じて対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所のスーパーへ買い物へ出かけたり訪問販売のパンの購入、訪問理容など出来る範囲で支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族に協力いただき、適切な医療が受けられるよう支援している。医療連携の病院とは常に情報共有でき安心していただけている。	全員が協力医療機関の訪問診療を受けている。専門医は家族と受診しているが、状況に応じて書面で健康状態を伝えたり職員が同行して適切な医療を受けられるように支援している。	

グループホームきれんじゃく

自己評価	外部評価	項目	自己評価(A棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体が医療法人で協力医療機関となっているため、訪問看護職員との連携し情報共有している。都度適切な医療等が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関とは連携がとりやすく、入退院時もスムーズに情報交換ができています。母体以外の医療機関への入退院についても連携をしご協力いただけるように努めている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時より看取りについて説明し毎年意向確認を行っている。希望があれば、主治医、ご家族などと協同し看取り介護を実践している	利用開始時に「重度化した場合の対応に係る指針」に沿って、事業所として可能な対応について説明している。毎年、看取りに関する意向について確認している。看取り時の心構えや家族対応、本人への配慮などに関して研修を実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	初期対応や連絡方法などを周知している。また、協力医療機関の指示を仰いでいる		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自衛消防訓練は年2回開催、定例会議時に連絡網の練習。運営推進会議では消防訓練を見学していただき現状を見て頂いている。	地域住民参加の下に、火災を想定した避難訓練を年2回実施しているが、近年は日程調整の関係で消防署の協力を得た訓練は実施されていない。雪害について職員間で話し合い、救急救命訓練講習も計画的に受講している。	日程を検討しながら、消防署の協力を得た避難訓練の実施を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を尊重し人生の先輩として敬い丁寧な対応、言葉使いを心がけている。	定期的に言葉遣いなどを振り返り、利用者に優しく接している。申し送り時は個人名が特定されないように果物名で伝え、プライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴や食事、就寝等できる限りご本人の意向に沿うよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	そのときの利用者様のペースや希望に添えるように、またそのときの状況に応じた暮らしをして頂けるように支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしくいられる支援を心がけている。好きな洋服を着る、訪問理容など		

グループホームきれんじゃく

自己評価	外部評価	項目	自己評価(A棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を伝えたり、好みのものを提供したりしている。おしぼりたたみなどお手伝い頂いている。	食材会社に食事の希望を伝え、調理形態も含めて柔軟な献立となっている。数人でラーメンを食べに出かけている。買い物に利用者も同行してお菓子類を買い、おやつ時間を皆で楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による献立を提供。食事摂取量や水分量や摂取状況等は毎食記録し、状況に応じた支援が出来るように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その方の状況に応じた口腔ケアを実践し、毎食後、清潔に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の状況に応じた排泄介助を心がけている。出来る限りトイレで排泄していただけるよう支援している	利用者の状態に沿って支援し、座位がとれる場合は昼夜間ともトイレで排泄を行っている。法人のリハビリ専門員の指導の下で排泄訓練を取り入れて状態を確認し、自立に向けた事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の水分量を把握し適量が摂取できているかの確認、毎日の体操や腹部マッサージを行うなど個々にも対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、時間は個々の体調や予定などによって、希望を聞き、調整を行っている。	月、火、木、金曜日を入浴日としているが曜日の変更は可能である。一人週2回の入浴を支援し、身体的な状態からシャワー浴を行うこともある。入浴を拒む場合は足浴を行い、利用者の状態に沿って気持ちよく入浴が楽しめるように工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の要望や状況により、個々に休息できるように支援している。日中は活動的に過ぎていただくことで、夜間の睡眠がとれるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別記録に添付して、職員が常に把握できるようにしている。薬による症状の変化等について往診、受診時に主治医に報告し指示を頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々で楽しめること、入居者全員で楽しめることを見極めながら支援している。お手伝いなども同じく支援している。		

グループホームきれんじゃく

自己評価	外部評価	項目	自己評価(A棟)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には、出来る限り外気浴ができるよう支援している。ご家族との外出を楽しまれる方もいる。	車椅子の利用者も一緒に、外気に触れる機会が多くなっている。屋外でアイスクリームを食べたり、母体病院の花壇を眺め、同法人施設の庭で桜の花見など、近隣を散歩しながら季節を感じている。数人でゲームセンターや買い物に出かけている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	訪問パン屋で買い物をされる方や、必要に応じてご家族と相談し支援に努めている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話やお手紙を出せるように希望などには対応している。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活しやすいように、入居者に合わせて空調を整えるなどの配慮を行っている。特に夏は居室に熱気がこもらないように遮熱に配慮している。	エレベーターを中心に両ユニットがあり、広いホールで運動や行事を行い交流の場になっている。各共用空間は回廊式の造りで、居間から見えない場所にトイレが配置してある。居間の大きな窓から光が入り居心地よい空間になっている。職員手づくりの季節作品などが飾られている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ、食堂、自室など、思い思いに好きな場所で過ごしていただけるよう支援している。仲の良い方同士で過ごせるようにも配慮している。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、使い慣れた家具や食器などを持参していただけることを伝えている。居室は馴染みのものを配置するなど居心地よく過ごせるよう支援している。	居室には事業所で備えてある物のほか、馴染みの家具類や小物類、仏壇、テレビなどが持ち込まれている。壁には塗り絵などの作品や職員手づくりの手紙入れなどが飾られている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、トイレなど明記したり共用部分は障害物が無いように動線に配慮。自立した生活が送れるように支援している。			

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172900755		
法人名	有限会社 ノースランド企画		
事業所名	グループホームきれんじやく B棟		
所在地	北海道旭川市末広5条7丁目1番11号		
自己評価作成日	令和1年(2019年)8月1日	評価結果市町村受理日	令和1年(2019年)10月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>母体が医療法人のため、医療との連携がとれている。終末期の対応についても希望があれば、ご本人、ご家族様に安心して最期の時を迎えていただけるよう医療と連携し支援している。同一建物内に、住宅型有料老人ホーム、訪問介護事業所、居宅支援事業所がある。</p>

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0172900755-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和1年9月25日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p> </p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(B棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設時、職員で作上げた理念である。職員間で共有し実践している		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方でボランティアとして来訪されレクなどで交流。ホームの行事には参加いただいたりしている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議やボランティアを通じて認知症の理解を求めている。また小学校の授業での訪問を受けたりしている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームでの行事や生活の様子をお伝えしている。それに対して質問や意見をお聞きし運営に反映できるように努めている		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加頂いたり、運営状況について相談させていただくなどしている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在身体拘束実施者はいないが、定期的に研修を行い身体拘束廃止に取り組んでいる		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修を行い、ホームでの虐待行為がないよう努めている。		

グループホームきれんじゃく

自己評価	外部評価	項目	自己評価(B棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在制度を利用されている方はいないが、必要時には助言等できるようまた、活用に繋げられるよう努めている。職員研修を行っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時や必要に応じて利用者、ご家族に説明させていただいている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が来訪時には現状報告と合わせて今困っていることなどないかを尋ねている。契約書、重要事項説明書に苦情について記載している		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例ミーティングにて職員の意見等を把握し管理者会議などで運営に反映できるよう報告、相談を行っている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回、人事考課を実施。また毎月勤務状況を管理者より報告している。ストレスチェック、健康診断も実施		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要性、力量に合わせて必要な研修が受けられるよう配慮している。毎月ミーティング内で研修を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センターで開催される研修は、他事業所との交流も出来るためできる限り参加できるよう支援している		

グループホームきれんじゃく

自己評価	外部評価	項目	自己評価(B棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に不安、心配事などを把握し入居後はご本人、ご家族に声かけを多くし、日常の様子を伝えるなどコミュニケーションに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族、ご本人の意向を確認し、入居前後の不安などを少しでも和らげることができるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の要望などをお聞きしグループホーム以外にも様々な介護サービスがあることをお伝えし検討して頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お手伝いを職員と一緒に行って頂くなどしている。ご本人が得意な事、やりたいことを把握して行えるようにしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族にご本人の状況に変化があれば連絡、相談し、一緒に考えていただくなど常にご本人を支えて頂いている。通院時には付き添いをお願いしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族に協力いただき支援している。馴染みの方もホームにはいつでも来訪して頂いて構わないことをお伝えしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの居場所で思い思いに過ごしていただきながらも孤立感のないように声かけなどを行っている。また、職員が仲介しながらゲームやレクリエーションを通じて交流がもてるよう配慮している		

グループホームきれんじゃく

自己評価	外部評価	項目	自己評価(B棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、何かあればご相談に応じることをお伝えしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時にご本人のアセスメントにて意向の把握に努めている。好きな事が行えるように支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの暮らしの情報をご本人、ご家族よりいただき今後のホームでの生活に活かせるよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前後にご本人の現状を把握し暮らしやすいように援助できるよう努めている。共同生活にも馴染めるよう支援。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	4か月に1回のペースで介護計画を作成。状況に変化があれば都度作成。新たな計画書の作成時には家族とも話し合っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々変化することについては、朝夕の申し送り時に情報共有できるよう努めている。毎月モニタリングを行い、評価に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	空室がある場合はショートステイが利用できるため、入居前に利用していただくなど要望に応じて対応している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在は身体状態が重い方々が多く外部の資源を活用することが難しいが、ボランティアを通じて楽しめるよう支援している		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族に協力していただき、適切な医療が受けられるよう支援している。終末期を迎えられている方々も医療と連携し安心して過ごしていただけるよう支援している		

グループホームきれんじやく

自己評価	外部評価	項目	自己評価(B棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体が医療法人で協力医療機関となっているため、訪問看護職員との連携が取りやすい。相談もしやすい環境である		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関とは連携が取りやすく、入退院時もスムーズに情報交換ができています。母体以外の医療機関への入退院についても連携をしご協力いただけるように努めている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在終末期を迎えている方々については、体調に変化などあった場合はご家族、医療と報告を密にし方針をその都度確認している		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	初期対応や連絡方法などを周知している。また、協力医療機関の指示を仰いでいる		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自衛消防訓練は年2回開催、定例会議時に連絡網の練習。運営推進会議では消防訓練を見学していただき現状を見ていただいている		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	丁寧な対応、言葉遣いを心掛けている。定期的な研修を行っている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己表現できない方が多いが、様子を観察しながら意向を少しでもくみ取れるよう努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自己表現が難しい方が多いため、体調をみながら支援することが多い		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日着る洋服を自分で選んだり、季節に応じた服装になるよう支援もしている		

グループホームきれんじゃく

自己評価	外部評価	項目	自己評価(B棟)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ミキサー食が多いが、少しでも口から食べることができるよう支援している。居宅療養管理指導もやっている。食器ふきなどのお手伝いをお願いしている。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	様々な工夫をしているが、水分や栄養が十分に摂れない場合は主治医に報告している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	残存機能が活用できるように支援している。ご自分で行えない方は毎食後保清を介助している			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限りトイレで排泄できるよう支援している。体調をみながら無理のない範囲で行っている			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日乳製品を食事に取り入れれたり、ひとりひとりの体調に配慮しながら支援している。また、必要時は主治医に相談している			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	2名介助で浴槽に入れるよう支援している。本人の意向も尊重している			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調に応じて日中に離床時間を多くできるよう配慮し夜間は眠れるよう工夫している			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が薬の把握がしやすいように個人記録に保管。変更があった場合は申し送りをしている。また薬の効果等は主治医に報告、相談している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	会話やレクリエーションなど、日々楽しめるように職員がお手伝いを行っている。			

グループホームきれんじやく

自己評価	外部評価	項目	自己評価(B棟)		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族と外出される方もいる一方でほとんどの方が外出が難しい状況ではある。可能な方は外出レクに参加頂いている。体調を考慮し外気浴に努めている			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人が所持したり使用できる方がいないが、ご家族と相談し支援に努めている			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望があれば、手紙や電話を掛けられるように支援している。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	アットホームな空間作りに努めている。共用スペースや居室では直射日光が当たらないようにまた、快適な空調で過ごせるよう配慮している。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	デイルーム、居室で体調に配慮しながら過ごしていただけるよう支援している			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのものを持参していただいたり、動きやすい動線に配慮した居室内の配置を心掛けている。仏壇を持参している方もいる。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所がわからず混乱しないように必要時は目印をつけるなど工夫している			

目標達成計画

事業所名 グループホームきれんじゃく

作成日：令和 1年 10月 1日

市町村受理日：令和 1年 10月 2日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議に、ご家族様の参加がない	参加が難しくても、事前に運営推進会議への要望等を伺い会議に反映させる	おたよりや来訪時を利用し、関心事などを伺ったり会議への参加の協力を得る	2年間
2	35	災害対策で自衛消防訓練に消防署の参加がない	少なくとも、2年に1回は消防署の参加を得られる	自衛消防訓練の日程を早めに決めて消防署に参加協力を得る	2年間
3	23	更新時のアセスメントシートの内容をさらに充実させる	更新時の入居者の趣味・嗜好・日常の様子などを記録することで、入居者をより理解できる	更新時のアセスメントシートに、追加項目記載欄を設けて、更新ごとに記載する	1か月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。